教　科　教　育　と　評　価

佐　々　木　　洋

Teaching-Methods Courses and Evaluations

Hirosi SASAKI

「理科教育」受講者計 247 人に「優良可があることの良し悪し」というテーマを出し，授業時間終了前の数分間を使って出席票に記入をもとめた。良し悪しの判断の根拠として主張されている意見のうち，よく似たものははぶき，多少とも異なるものをすべて書き抜き，分類してみると下記のようになった。

I. たよりがいのある評価がほしい

I—1　あたたかみとはげましのある評価がほしい

a．感想をつけ加えるなど，あたたかみのある評価がほしい。

「ただ単に合否のみをつけるというのもはなはだ気ぬけのする感じである。」(教 Hm)

「合否だけだと，なんとなく事務的で冷たい感じがします。」(教 Sk)

「合否のみでは，受験者側にとって物足りないものとなろう。」(教 Im)

上記3者とは合否制についての考えは異なるが，

「合否だけにして先生の感想なりをつけ加えられるような余裕のある授業が欲しい。」(教 Um)

b．努力の度合を無視して結果だけを評価することには反撥を感じる。

「ほんとうならその優良可によって努力の過程がみとめられるべきであるはずなのに。」(教 Iy)

「優良可は表面的なもので内面の努力というものが見られない。」(教 Hm)

特に教育実習については，

「たとえどんなに短い期間であろうとも，はじめて人に教えるのだからその人なりの真剣さはあるであろうから。」(教 Kz)

「教生へ行って自分が精一杯やったことへの成績をつけることは疑問に思う。」(教 Zm)

「実習に参加した者には，それなりの苦労があるのだから全部に少なくとも合が与えられるべきだ。」(教 Me)

c．努力して良い結果がでたときは「優」でほめてもらいたい。

「勉強した結果優だったらうれしい。」(教 Ts)

「常々研究などしていたものを講義でより深く理解し自分で探求したものの分野で優をもらうのは実によろこばしかった。」(教 My)

「合否だけで決まるのだったら，結果を味わうことが減少してつまらないと思う。」(教 Mm)

「試験がよくできた時には合否ではものたりなく，優がもらえると嬉しくなるものだ。」（農 Ty)

「真面目な学生が余裕を残して合格した場合，単に合格では物足りないのではないだろうか。」（理 Tt)

d.「チャンスは何回もあたえるべきだ。」（教 Nh)

I—2 信頼できる評価がなされていない点に不満がある

a. 今行なわれている試験から出た評価は信用にならない。

「大学の試験においてそんなに個人差のあるようなできふできのはっきりわかるような試験があるような気はしません。」（教 Km)

「試験期に一枚のテストペーパーを書くか，それに代る一回のレポート提出のみで成績の優良可が決定されてきている。」（教 Hm)

「マスプロ教育の中で出席状態と一回の試験の結果でしか評価のしようがない。」（教 Kh)

「一回のテストで優良可がつけられること自体まちがっている。」（教 Ky)

「一枚の紙の上でその評価をつけることさえもむずかしいのだ。」（水 Mt)

「現在の大学のように教師学生ともにお互いを良く知り得ない間がらで優良可の評価がどうしてできようか。」（農 Kh)

「大学4年間だけではその当該学生の真の価値は決定されえない。大器晩成もあることである。」（教 Ys)

b. 優良可の判定が不安定である。

「よくテストのあと同じ様なことしか書かなかったのに，一方は優で一方は可とあいまい。」（教 Ik)

「優良可はあまりあてにならないというのが今までの実感である。」（教 Nn)

「教養の時優良可きちんと点数でつけている先生は少ないらしい。」（教 Ts)

c. 評価する側が主観で左右する採点を行なった場合は，その主観と異なる立場の者は不満である。

「論文レポート形式によるものの評価を段階別にするのは納得できぬ。なぜならそこには当然その採点者たる教官の私情が入るからである。」（教 Im)

「主観的な問題への解答に優良可などつけてくるのは納得がゆかない。」（理 Os)

「先生の考え方次第でこの評価が決まることはあまり好ましくないと思う。」（教 Hk)

「教官の主観に左右される評価は好ましくない。」（教 Th)

「鹿大の現状をみても先生が気に入るような答案の書き方でないと同じ程度のことを書いてあっても優と良であったり，良と可であったりする。」（教 Nk)

「他の思想的なものは先生と意見があわなかったので可とか。ナンセンスだと思う。」（教 Uk)

「教授の思想的な面がはいって，自分には優のつもりが可に落とされてしまったのには腹が立

つ。」(教 Hk)

「教師の考え方や思想に合わせて変にこびた答案を書く。」(教 Sh)

d．カンニング能力まで含んでの評価では意味がない。

「大学の試験でカンニングがまかり通っている常態(ママ)で優良可 or 合否の評価をしても無意味。」(水 My)

「カンニングしてゆうゆうと優をとる人もいるし，苦労して良にとどまる人もいる。」(教 My)

「教養のころ思ったのだが，カンニングして優をとる人，がんばったが良可だった人など，個人の勉強をしたかどうかをこれはみていない。」(教 Ty)

「教養のときのカンニングをして優をもらい普通に勉強して可をもらうものはゆるされるべきではありません。」(理 Mk)

II. 納得のゆく評価がほしい

II—1

a．実のある評価を大いにのぞむ。

「その人の人格ややる気も段階的に評価できる方法はないものでしょうか。」(教 Sk)

「しかし本当に質のある優良可があったら，それはその方がはり合はある。」(教 Iy)

「一回のテストでどれだけ理解し，かつ自らの血肉となっているかが分れば，どういう形で評価されようとかまわない。」(理 Kh)

b．自分の予想と大いにちがう評価をされるとがっかりする。

「あまり勉強してないで優をとったり，勉強したつもりなのに可だったりするとがっかりする。」(教 Ts)

「我ながらうまくかけたし，後で答えを確かめてもかなりできていたと思ったのに可であったり，全くできなかったと思ったのに良なんかであったりして。」(農 Ky)

II—2　評価や講義内容についての決定は独裁的である

a．判定が秘密主義である。

「成績の結果である点数を公表しないのはどうかと思う。」(教 Sm)

「試験後テスト用紙を学生に見せないのだから合点がいかない。」(教 Th)

「評価の基準が大切であって。」(教 Mm)

「優良可をどのようにしてきめるかの基準に問題があるのではないだろうか。」(教 Hh)

「その成績をつけるにあたって何を基準にそして何からそういう成績が生まれたかを明記して欲しい。」(教 Os)

b．講義内容や採点方法・結果に不満があっても持ってゆき場がない。

「全くあてにならない試験で差をつけられるのは良しくない。」(水 Mt)

「講義内容も人のノートで足りるものであるし。」(教 My)

「それにふさわしい講義内容が伴わなくて不合格した人はあきらめようもないというものでは。」(教 Os)

「くだらない教官（人間）に自分の能力学力を判定されるのは全く苦痛だ。」(農 On)

II—3 教官は評価という権力をたくみに使っている

a.「優」のホービで学生を型にはめようとしている。

「学生の勉強に対する真剣さを増す一つの手段としてである。」(教 Hk)

「どうせとるなら優を取りたいと思う。」(教 St)

「よりよい成績を取ろうとして勉強に対する意欲がわく。」(教 Sh)

「優という言葉の視覚的聴覚的印象がはるかに良や可より上まわる。」(教 Ur)

「ただ上からの押しつけの学問に終ってしまい。」(教 Oh)

「独創性を重んずるならこの段階評価には非常な問題点があろう。」(教 Im)

b. 教官には評価により学生を区分けするたのしみがある。

「それから先生にとって段階的にわける（それは人間が生来必然的に好むものであるが）ことは一つの楽しみである。」(理 Ky)

「教授を，優良可をつけて一仕事終えたと，満足させるために。」(農 Ok)

c. 権威の維持として評価が行なわれている。

「合否だけでは，それだけ教授の権威が失なわれることになり。」(農 Ok)

「講義内容などが中味のないものであれば合否だけでよい。」(理 Ms)

III. 成績のランクがあるのは，よくできたものをほめ，なまけものを罰するためである

III—1 かっこうの良さを成績で示したい

a.「優」を多くとることにより，人より秀でたい。

「優良可は他人と競い合い勉強意欲をかきたてるからその方がよい。」(水 Ms)

「私のごとく成績優秀な人物に優越感をいだかせるためにも区別はできるだけ多くした方が良い。」(農 Ys)

「私(ワタクシ)みたいに優を専門にとっている人は，やはり優良可の評価がいいと思うのですが。」(農 Ys′)

「優の数を数えてみるのは楽しいものだ。」(農 Iy)

「優を取ったことで自分の優越感を満たすことができる。」(教 Sh)

「他人に差をつけられないからつまらない。」(農 Ay)

b.「優」以外では面目がない。

「仕事をやり終えた喜びを得るためにも良はいらない。優か不可にしてもらいたいものだ。」(教 Ok)

「優良可はあってもよいが不可はない方がよい。」(教 Ky)

III—2　残念賞も含めて，成果に対するホービは必要である

a．出来の悪い学生を救うために良や可がもうけられている。

「優一つにしぼって合否を決めるべきだ。現在は余りに容易に単位を出している。」(理 Ms)

「不合格の学生も良とか可をもうけてすくってやろうとしているのはけっこうではないか。」(農 Tt)

b．成果を区別する何かの目じるしは必要である。

「判別するものがないと皆が一様に思えてならない。」(教 Hm)

「授業における理解度という点から考えれば優良可の差別はやむをえないものである。」(教 Yh)

「今の資本主義では，やはりやっている人に損をさせないようにしなければいけない。」(教 Ot)

III—3　成績がいつも悪いので，試験がいやだ

a．いつもやっとこさ試験にパスしている。

「合格しさえすれば良いという思いが大部分です。」(教 Sk)

「非常に悪いことだ。自分が可ばかりとっているせいか。実際に努力しているのだが結果はいつも悪い。」(教 Uy)

b．どうしてもボーダーラインすれすれの成績しかとれないとき，いつも可や不可をもらうのはいやな気持だ。

「自己嫌悪におちいる。」(教 Sh)

「自分は劣等生だから優良可があると困る。」(教 Mh)

「明らかに勉強の出来具合で差をつけているのであって，一生けんめい勉強したのであるなら，こういう評価のつけ方はまずいと思う。」(？ An)

「やっと合格した者にとっては優良可というものはあってほしくないものではないだろうか。」(理 Tt)

「不可など人間にあきらめを持たせるのでよくない。」(水 Ms)

IV．単位のみを問題とする場合，ランクづけは蛇足である

a．ランクづけは勉強家以外の者にとってはめいわくだ。

「勉強するものにとっては優良可があった方がいいのでは。しないものにとっては合否だけでよい。」(教 Yh)

「単位を取りさえすれば良い者にとっては合否だけで結構。」(聴 Mt)

b．単位の問題としては合否の2区分で十分だ。

「僕たち学生にとって問題となるのは単位が取れるか取れないかにあるのじゃないのですか。」

(教 Ty)

「合格すればいいのだから優良可の区別は手をわずらわせるだけである。」(教 Ny)

c．水準点に達しているかどうかがわかればそれで十分。

「結局問題は個人がある水準よりまさっているかどうか。すなわち合否の問題にすぎない。」(教 Kh)

「ある点以上とったら優でそれ以下は不可にすればよい。」(教 Ky)

「ある得点以上をとったものはすべて合格と見なすべきだ。」(教 Kh′)

V. 大学は単位をもらうところという考えに立つと，必要な最低水準をこえてまでの努力をしなくなる

a．最低水準の点をとればそれで満足と努力をおこたるおそれがある。

「学生はただ合格でありさえすれば良いという意識が出てきて勉強する意欲がなくなる。」(教 Mk)

「合格点が60点であれば，そのくらいの勉強しかしないで，60点ちょっととるだけで満足してしまうのではないかと思う。」(教 Tn)

「合否だけでは試験をうける本人も軽い気持になってしまうのではないか。」(教 Nk)

「可をとればよいと考えて勉強もあまりしなくなる。」(教 Nt)

b．合否だけにすると学生が努力をおしむようになるおそれがある。

「合否だけにするとカンニングがもっとふえると思う。」(理 Tk)

「合否だけにすると努力をおこたりカンニングのふえるおそれあり。」(理 Hy)

「大学生の質が合否だけにすると悪くなるおそれがある。」(教 Ht)

VI. 成績というレッテルに余りに力を入れ中味を犠牲にしている

VI—1 第三者を余りに意識した評価が行なわれている

a．評価は対外的なレッテルの役目をはたしている。

「第三者から見た場合合否だけでは何の判断もつきかねる。」(教 Nk)

「優良可がなくなったとしたら第3者が非常に困るのではなかろうか。」(教 Mt)

「入社試験のときとか会社が困るのでは。」(農 Kh)

「本来は合否だけでよいと思うが，何せ学歴を重んじる社会であるから，社会が悪いというか，政府が悪いというか，」(農 Yk)

「就職の事とか学校の運営上の点で成績を出さないと不都合が起きると考えます。」(教 Mm)

「教員の採用試験の際在学中に優を多くとっている者を優先させるという話を聞きます。」(教 Km)

「合否だけでいい。そしたら教職の採用のとき教育委員会のおじさんたちを少しはがんばらせ

る。」(理 Kt)

「すなわち誰が一番よくやっているか解らず試験の時苦労する。あいつの答案を参考にすれば必ず……。」(教 Mt)

b．学生は就職と優良可のムチでたたかれている。

「専門では就職のために優良可をつくって勉強させようとしているみたい。」(農 Tm)

「その優良可が意外に大きい力をもっていることは問題だと思う。たとえば就職の時はそうである。」(教 Iz)

「頑張って勉強する。」(教 St)

c．形式をととのえるためだけにテストが行われている。

「前もってテスト問題は提起されている。」(教 Nn)

「単位をやるための試験の感じがあって。」(教 Mt)

VI—2　成績が人全体を代理するという考えが起る

a．「優」の多いことがただちに（精神面も含めて）りっぱな人物と考えられがちである。

「優良可をつけるだけでその人の人格と混同しやすいから，ない方がいい。」(水 Ht)

「社会の目が優良可という評価を誤まった目で見るから。」(教 St)

「それはあくまで点数であって人間の精神面の差であってはならない。現実にはそれがあたかも同一であるように考えられている。」(教 Mk)

b．「優」でいばり「可」で卑屈になるという結果が生じやすい。

「優の者がいらぬ優越心を持ち，可以下の者が不必要な劣等感を持たない様気をつけないといけない。」(教 Kk)

「優というものにこだわる者がでてきそうである。その為優越感をもちいばったようになるのではないか。そんな人が教師になったらどうなるだろうか。」(教 Ks)

VI—3　よい成績をとるため他を犠牲にした考えや行動をとる

a．成績のため他を犠牲にした勉強をする。

「点とり虫になりがち。」(教 Ur)

「優をとろうと一夜づけなんかして勉強する。」(教 Ts)

「目先の成績のみにとらわれる。」(教 Sh)

「将来のためと思って視野のせまい勉強をする。」(教 St)

b．「優」をとるために過当競争が生じる。

「優良可があることは人間の競争意識を高め。」(教 Tk)

「人間の共同生活ではみにくいあらそいになりがちである。」(同上)

VII. 自分のいる位置と進すむべき方向とが成績によって示される

VII—1　より良い評価を得るためにと意欲が湧く

「可よりも良，良よりも優をとりたいと思う気持を満足させるためにあるようなものだ。」（教 Is）

「この段階があってこそ向上への意欲が湧く。」（教 Mm）

VII—2 きめの細かい評価の方が自分の成績をよりよく役立てることができる

a．自分の努力の成果をくわしく知りたい。

「優良可がなかったらこの複雑な気持がおこらない。」（教 Th）

「合だけでは自分の位置がわからない。」（教 Ur）

「判定される方もたよりない気がする。」（教 Km）

「正確に自分の努力の結果は知りたい。」（教 Sk）

「自分がどの程度理解できていたかを知ることができる。」（教 Sh）

「いままで可をとるための勉強，良をとるための勉強，優をとるための勉強というように段階的にやってきたのに，合否だけにするとおもしろくない。」（教 Sy）

b．きめの細かい評価によってより多くの情報を得ることができる。

「合格でもぎりぎりの線であったかどうかもわかる。」（教 Tn）

「可と不可があれば自分の弱点短所がわかる。」（教 Hz）

「単純な区分より自分を教官がどう見るかということをよく知ることが出来る。」（教 Nh）

「優良可で判定されることにより本人がもっと努力するべきだとかいろいろと考え，向上のための努力がなされるからよいと思う。」（教 Nn）

VIII. いらぬ評価はしてほしくない

a．絶対的・客観的評価ができる人はどこにもいない。

「どんな社会でもどんな人間も絶対的に良否の判断を下す能力はないのではないか。」（教 Ty）

「その基準はあくまで主観的なものになるのであるし。」（同上）

b．点づけそのものがいやだ。

「小学生ならともかく，何点というレベルをつけてほしくない。」（教 Nr）

「点数づけしているかぎりは優良可，合否どちらでも同じこと。」（教 Iy）

c．入試で入った大学生にそう大きい質の差があるわけはない。

「大学へは入ってくるぐらいだからだいたい実力は変らないと思われる。」（農 Ta）

「特別に（ママ）すぐれている人がいるわけではないし，劣っている人も目につくわけでない。よって優良可などと小さくしないで合否のどちらかにしたらいい。」（教 Hk）

IX. 大学では成績にとらわれず自分の判断を重んじたい

「学生自身が判断，卒業できると思うなら卒業し，まだだめだと思うならまた受けなおしてゆく方法が良い。」（教 Hh）

「合否の中においても優良可の判定は自分自身がわかっていると思う。」(教 Yr)

a．試験の結果にとらわれることはない。

「要は結果がどうこうというのではなく今自分がどう生きているかということが大切であるのだから。」(水 Mh)

「ペーパーテストでの結果が優であろうと社会に出てそのままの結果を生むでなし。」(理 It)

b．「優」があるから勉強しているのではない。

「大学というのは何といっても学問を修めるところだから優良可をつけようが，合否だけであろうが，とにかく本人が勉強すればよいことである。」(農 Kh)

「『優を取る為に勉強する』などというのは真に学問をやる人の態度ではない。」(教 Hr)

「私は優や良や可をもらうために大学に出てきているのではなく。」(教 Ht)

「私は大学の授業で優をもらいたいためには勉強はしていない。」(教 Sy)

「優をとる為の勉強。つまり小学生みたいにそれによって向上がおこるということもないから。」(教 My)

c．成績を気にしないでゆったりと勉強したい。

「合否だけならあまりやりたくないものは合格するくらいにやり，自分のやりたいことをどんどんできるのではないだろうか。」(教 Th)

「その方* が気楽に勉強できる気がする。」(農 Kh)　　* 合否制

X. 点数がこまかく出るほど信頼がおける

「同じ可でも良い方のものと悪い方のものとがある。それなら一層のこと点数を明らかにしてもらった方がずっといいのではないか。」(教 Mm)

a．○×式テスト以外による評価には不安不信がある。

「でも高校までと異って○×式でないのにそれに対して優良可を本当に正しくつけられるものだろうか。」(教 Ik)

「教育実習の場合は合否だけでいいと思う。教育実習は実験経験であるから優良可はつけにくいし，またその必要もないと思う。」(教 Im)

b．はっきりとランクづけができる分野もある。

「しかし体育の実技とか音楽における演奏などは，個人で差があるのだから，何段階かに分けた評価が妥当と思う。」(教 Hr)

「語学や暗記する教科ならはっきりしたランクもつけられると思うが。」(教 Uk)

c．こまかい評価がでそうにない場合やしなくてよい場合がある。

「これがゼミ方式の講義であれば合否だけでよいと考えられる。」(工 Et)

「教育学部等の論文形式のテストでは合否の方が適当ではないでしょうか。」(教 Tk)

XI. その他

a．一部の教師や学生に授業に対するとり組みがなっていない者がいる。

「現在では学生の方にも一部の教師にも不まじめな人々がいる以上。」(農 Mk)

「くだらない講義をされる先生ほどよく出席を気にする。」(理 Os)

「授業内容がありさえすれば学生はついてくるのだ。」(同上)

b．カンニングが野ばなしにされている。

「カンニングは横行しているし。」(教 Nn)

「不正な手段を用いて単位を取る学生もいることだし。」(教 Nh)

「学校側が黙認しているカンニング。」(教 As)

「現在の大学の試験制度を改革すべきである。カンニングが横行しているではないか。」(理 Hh)

c．合否評価により事務量がへる。

「教務の仕事を削減することになり。」(理 Ky)

「さい点が楽になり，事務の仕事もいくぶん軽くなる。」(農 Kt)

考察

数分間という短かい調査にもかかわらず，評価についての問題点が（他の立場からの観点に立ったもの，例えば採点者として問題の作成や採点に要する時間と労力，を除いて）すべてカバーされている点は，回答人数の多さを考慮しても興味あることである。調査対象となった学生は，大部分が2年生なので，評価に関する講義はまだ受けていないため，初歩的な考えまちがいをしている者が見受けられる。

評価をする方も，評価をされる方も評価についての考え方がまちまちであることがこの調査資料によりよくわかる。これは評価についての一般的基準がないため，局部的な評価のみが行なわれているためである。

他の分野での一般的基準の例を見れば，基線・水準点（地図），試験紙（化学），メートル原器（物理学）〔現在は光の波長〕，標準鉱石（地学），世界記録（体育），段（柔道，剣道，囲碁，将棋，珠算）などがある。

局部的な評価で十分な場合も当然存在する。交流のない領域ではそうである。しかし交流が拡大してゆくのが大勢である。こうしてみると現在の大学での学生に与える評価は，藩札通用の時代のもので，かつ両替が行なわれていない状態に対応している。日本銀行券や世界銀行券が通用し始めるのはまだまだ先のことであろう。しかし教科教育は今から為替レートの見積を始め，新しい時代にそなえてゆかねならばない。各教科について**グローバル**で**一貫**した評価の**体系**を作りあげるのは教科教育の仕事である。

参考文献（等価システムに関して）

〔1〕 市川亀久弥「創造性の科学」昭和45年5月刊（日本放送出版協会）
〔2〕 杉田元宜・岡山誠司「情報科学」昭和45年11月刊（朝倉書店）
〔3〕 フォン・ベルタランフィ「一般システム理論」昭和48年7月刊（みすず書房）

資　　料（「理科教育」出席票）

〔内訳〕 昭和47年1月11日　123人
　　昭和47年1月12日　124人

註（教 Ab）＝学部および姓名の頭文字
　　教＝教育学部　理＝理学部　農＝農学部　水＝水産学部　工＝工学部　聴＝聴講生

引用文――句読点補充，誤字のみ訂正，その他は原文のまま。